

令和4年度湖南省まち・ひと・しごと戦略茶話会議事録

- 日時：令和4年7月28日（木）14時～16時15分
- 場所：サンライフ甲西2階大ホール
- 参加：委員10名

職員A）それでは、お待たせいたしました。定刻となりましたので、これより始めさせていただきます。本日はお忙しい中、令和4年度湖南省まち・ひと・しごと戦略茶話会にご出席を賜りまして、誠にありがとうございます。今回進めていくにあたりまして、コロナの感染が急拡大しております。こういったことから、換気対策のため、窓を開けたままの状態等で、進めさせていただきますので、何卒ご理解をいただきますようよろしくお願いいたします。

それでは開会にあたりまして、本来ですと、市長がご挨拶申し上げますところですが、公務重なっておりますので、職員Bよりご挨拶申し上げます。

職員B）改めまして、皆さまこんにちは。梅雨が早く明けまして、少し戻り梅雨ということ先週は大雨が降ってしまっていて、今週からかなり暑くなりまして、もう本当に梅雨が明けたのかな、やっと夏が来たのかなというような状況になりました。こんな中でございますけれども、委員の皆さまには、本日はお忙しいところ広くからご意見を頂戴する場にご出席いただきましてありがとうございます。この湖南省の総合戦略でございますけれども、第二次湖南省総合計画後期基本計画というのを、令和元年と令和2年の2カ年にわたりまして、策定のための審議会を作っておりました。その総合計画につきましては、令和3年の1月29日に市長の答申をいただきまして、令和3年4月から、湖南省総合計画第二次の後期計画がスタートしたわけでございます。それにあわせて、湖南省「きらめき・ときめき・元気創生総合戦略」本日、皆様にお世話になりますこちらにつきましては、一年ずれておりました、延長した上で、今回、第二期ということで、総合計画をあわず形でスタートさせていただきます。こちらにつきましては、まち・ひと・しごと、総合戦略といひまして、まちのプラン、ひとのプラン、しごとのプラン、この3つのプランを基本プランといたしまして、総合戦略を推進しているわけでございます。

現在の内閣府の地方創生推進交付金事業、それからコロナ感染症対応臨時交付金事業、こういったものは、すべてこの総合戦略の実施計画に基づいて行うこととされております。で

すから、本日、各部局の次長がここに参加させていただいておりますけれども、それぞれの部局の政策パッケージシートを作らせていただいております。この計画に基づいて進めているわけでございます。

本日は、限られた時間ではございますけれども、何卒、皆さんの方からも、様々なご意見や、評価の方をいただければ幸いです。暑い中でもございますけれども、会長の委員1様、進行の方よろしくお願ひします。また委員の皆さんも活発なご意見をいただきますようよろしくお願ひしまして、冒頭のごあいさつとさせていただきます。どうもありがとうございます。

職員A) ありがとうございます。それでは本日ご出席の皆さんの自己紹介ということで進めていきたいんですが、お手元資料の2ページに今日ご出席の皆様の名簿が載せてございます。委員10さんにつきましては、お電話をいただきまして体調不良ということで、本日も欠席でございます。

それでは、自己紹介という形で順番に進めていただきたいと思います。自己紹介でお名前をいただきながら、まず湖南省との関わりや、いま感じることっていうところを、自己紹介と一緒に簡単に触れていただけるとありがたいと思います。まず委員1様の方から、順番にお話しただけならということをお願いをします。

委員1) 皆様こんにちは。委員1と申します。湖南省とどういう関わりだったかといいますと、湖南省がもともと福祉だったり環境であったり、農福連携であったりと非常に興味を感じておまして、自治体の交流の場所で、ご一緒することが10年、20年とありました。その中で総合計画の審議会の会長をやってくれないかとご依頼がありまして、やりましょうということで加わったというのが、わたしのプロフィールということになります。

今日は、大事な評価を進めていく時にあたりますので、私もいろいろなところで総合計画や基本計画と名前がついた計画の座長をして参りました。やはり一番大事なと個人的に感じているのは、進捗管理をどうやって、行政の人たちと、関係する地域の皆さんや専門家の皆さんが、うまくやっていくことができるのかということだと思います。行政は目標を立てて実施することはしても、進捗も市民と管理するということではできませんでした。ましてや近年になっては、目標を数値化して、その達成を評価するというような形になってきましたので、今日の会議の意味は、そういう新しいスタイルを湖南省でもしっかりと定着させる第一歩になるのかなと個人的には感じています。どうぞ、暑い中よろしくお願ひいたします。

委員2) こんにちは委員2と申します。私は、生まれも育ちも湖南省で、石部の商店街の中で育った人間です。小さいころは商店街がある旧道も血気盛んにやってきた中で、仕事で湖南省内に配達させていただいて、いろんな住宅や環境などいろいろと日々目の当たりにして、変わっていく湖南省を見ながら考えさせていただいております。今日はいろいろなこと

を聞きながら、またこれからのことを考えさせていただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

委員3) 本日は湖南省工業会という立場で参加をさせていただいております。また一方では、この7月から、湖南ロータリークラブの役員を抑せつかってありまして来年の6月までいろんな形で行政の皆さんとも接点を持たせていただいております。お世話になるかなと思うので、よろしくお願いいたします。

私は、平成元年まで湖南省、当時甲西町に縁もゆかりもなかったのですが、家の方はその前に京都から移転をしていたのですが、それまでは本当に学生生活、ずっと京都で過ごしまして社会人になったのは京都ということで、なかなか最初はなじめなかったのですが、実は、水口にありますが青年会議所の方に所属させていただいたり、また商工会の青年部に入らせていただいております。地元の方々といろんな形で接点を持たせていただいたところから、いまではどっぷりと地域に根差したロータリークラブの役員を抑せつかっているということになります。人生にいろいろな転機があって、湖南省の行政の皆さんも市外から通勤されている人が多いのだろうというふうに思いますけど、やはり何らかの形で湖南省がいい街になってほしい、自分たちにできることがあればと思いますので、どうぞ本日はよろしくお願いいたします。

委員4) こんにちは、湖南甲賀地区の労福協の方からこさせていただきました委員4と申します。湖南工業団地にあります企業で働いております。その中で、労働組合の方で、支部の役員をさせていただいております。会社に入って20数年、この甲西町から始まりまして、湖南省になりまして、ずっとお世話になっております。その間、4年間ほど新婚生活をさせていただいて、いろいろ感じるころもありましたので、労働者の目線、子育て世代の目線から何か一言言えたらとは思っておりますので、皆さんよろしくお願いいたします。

委員5) 皆さんこんにちは。滋賀県立甲西高等学校で教諭をしております。私と湖南省のかわりは、この7年間です。私自身は岐阜県が地元で、大学までずっと岐阜にいてその後も数年岐阜で教諭をし、13年前から滋賀県の教諭をしています。現在の学校は2校目で、そのうちの3年間は担任をしておりましたので、湖南省と関わった仕事をしたわけではないのですが、5年前に高校側の現場で総合的な探求学習が始まることになり、企画担当をしろということで、ずっとやっていく中で、何を題材にすればいいんだろうっていうふうに考えた時に、本校は湖南甲賀の子が多いので、その子どもたちが地元について勉強して、地域で育ち、そのあと地域に帰って来れるようにしていくにはどうしたらいいだろうということで、学習の内容の、1年分をそこに充てるという形で仕事をしていく中で、湖南省さんとの関わりを持つようになりました。

今思っているのは、大学進学の時には、湖南省に大学がないので、そのあと、帰ってきたいと思ってもらえるような、湖南省が好きだから帰ってきたいと思ってもらえるようなことを高校側も市役所と協力していけたらいいなと思います。今日はどうぞよろしく願いいたします。

委員6) こんにちは、職業は湖南省で小さなガソリンスタンドやっているのですが、人の縁というのは不思議なもので、数年前に甲賀市湖南省のビジネスアイデアコンテストということで隣の委員7さんに取材していただいたんですけども、そこで健康茶を元にした新しいビジネスってことで賞をとりまして、ただ賞を取ったのですが、私1人のアイデアで終わってしまっていて、悶々とした日々を過ごしてましたら、本当にさっき言った、縁というか湖南省の地域創生推進課の方が中心に、いろんなサポートをしていただいて、そこからいろいろ方向は変わってきたのですが、今までは石部の東寺に献上ごぼうというものを昭和天皇に献上したっていう、ごぼうをもう一度復刻できないかということでそういう町の地域の人を巻き込んだプロジェクトを継続してさせていただいてるということで、そのプロジェクトの会長を務めさせていただいてます。

この地域創生とかまちづくりに関しては、自分自身よりも私も2人の子どもがいますけれども、その子どもたちが、もう一度湖南省、また自分の生まれ育ったところを、好きになるということで、そういう地域にしていきたいということでいろんな取組を、私自身もできる限りのことをしていければと思ってます。

私は湖南省、全然関係なく生まれも育ちも奄美大島の方で、ただ今やもう本当にこの町がいろんな人も含めて大好きになりましたので、自分の子どもたちもそういう誇れるような地域になって欲しいということで、今後とも頑張っていきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

委員7) よろしく願いいたします。報道の関係で現在は甲賀と湖南と栗東の三市を担当しております。浜松市出身なので、こちらにもともと縁がないのですが、記者の駆け出しだったころに彦根支局が赴任地だったため滋賀県は2回目となります。湖東とは違って、関西食の文化もあるし今こちらの、独自の文化もあって、面白い地域だなと思います。湖南2年目ではありますが普段仕事の中で感じております。メディアという仕事をしているので、この2年間ずっと生田市長に代わられてから、良い意味でも悪い意味でも、目立ってしまっているようなところがありますけれども、実際、まちの中をよく見ると、市長以上にとがった発想を持って頑張っていらっしゃる方がたくさんいらっしゃるということがわかったので、そういった方々取材していけたら、メディアとしてもそうですし、地域創生の活動も届けていけたらなと思っております。

委員8) 皆さんはじめまして。こなんSDGsカレッジという中学生、高校生を対象にしたプ

プログラムを運営しております委員8と申します。お手元の緑色のパンフレットがありますが、これが去年撮影したものになります。後でご覧になっていただけたら幸いです。

先ほど、甲西高校の委員6さんが地元を好きになって戻ってきてほしいとおっしゃっていましたが、まさにそれが私たちのしたいことで、中学生、高校生の時代に地元の湖南省のことをしっかり知っていただいて、将来的に戻ってきてほしいというのが私たちの願いです。やっていることは湖南省を舞台に中学生・高校生が挑戦したいことや好きなこと、やってみたいことをプロジェクトとして、私たちがサポートしながら実践してもらうというプロジェクトです。今年の8月の2日から8日にかけてキャンプを行って、プロジェクトを大学生と一緒に練って、12月の発表会に向けて実際にプロジェクトを実行していくかたちになっています。私個人の湖南省とのかかわりについては、4月20日ごろから湖南省に住まわせていただいている、実際に感じたことは人があたたかいなと感じていて、言葉では表面的に聞こえてしまうかもしれませんが、私はいまカナダの大学に行っているのですが、近くの食堂に行ったとき、仲良くなった店主さんが寂しくなったらいつでも湖南省に電話かけておいでとっていただいて、それがすごく心に残っていて、人との出会いが湖南省に戻ってきたいと思うので、中高生にもぜひ人との出会いを体験してほしいと強く思っています。今日は、年齢が下ですので学生の目線で提言できたらと思います。よろしくお願いいたします。

委員9) 湖南省観光協会からこらせていただいております。湖南省の夏見で店を経営させていただいております。人に幸せになってもらいたい、ちょっとでも喜んでもらいたい、そのためにはどうしたらいいのか日々考えてずっとここまでやってまいりました。湖南省に住んで半世紀が経つのですが、今思うのは若い人たちがとっても元気だなと思っています。若い人の意見を取り入れながら、これからの素敵なまちづくりができたらいいなと、勉強させていただきます。よろしくお願いいたします。

職員B) はい、皆さんどうもありがとうございました。続きまして、この戦略茶話会の進め方について、簡単にご説明をさせていただきます。お手元資料の、次第をご覧くださいと思います。このたび茶話会につきましては、冒頭のご挨拶にもありましたように各業界の代表者の皆さん、今日お集まりの皆さんと一緒に、湖南省の目指すべきまちづくりについて、こういったことをテーマに進めて参りたいというふうに思います。本日のスケジュールといたしましては、事務局より、地方創生の取組に関しての、全体の説明をさせていただきます。

そのあとに、各委員様より、事前にお渡しをさせていただいております、きらめき・ときめき・元気創生総合戦略であります政策評価パッケージシートに関すること、また、湖南省の取組について感じていただいたことや気になったことがご自由に発言をいただきたいと思っております。

続いて、第二部の中では、政策評価パッケージシートについて、担当部局より特に評価していただきたい事業について、数点ご説明をさせていただきたいと思います。そこで、合わせてそのほかの分野についても、お気づきの点やご意見がありましたら、ぜひこの機会にお聞かせいただきたいと思います。

今回の評価シートにつきましては、事前に委員の皆様にお配りをさしていただいて、ご質問等をいただいております。その回答につきましては整理をさせていただいて、配布をさせていただいてございますので、それ以外のところで、ご意見いただければなというふうに考えております。ただ、評価シートの質疑についてはもう整理を事前にさせていただいておりますので、今回いただいたご意見については、この場で承るというだけになることがございます。説明をさせていただける部分もありますが、本日、担当部局次長が出席をされてない部局もありますので、そういったことから、ご意見はご意見として、今回お受けをさせていただきたいと思いますが、それについて、ご回答させていただくというところができない場合もありますので、そのあたりはご了承いただきたいなというふうに思います。

今、委員の皆さんのご紹介をいただきましたが、政策評価パッケージシートに関わる各部局の次長級職員が、今日は出席をさせていただいてございます。

それでは、次第3の地方創生の取組について、担当の方より10分ほどでございますが、前のモニターを使いながら説明をさせていただきます。よろしくお願いいたします。

職員C) 皆さま本日はありがとうございます。地域創生推進課の職員Cと申します。私の方から地方創生の取組についてというところでご説明させていただきます。地方創生の取組についてと書いた10ページほどのホッチキス止めしたものでございます。

では2ページ目でございますが、まずは総合戦略の概要としまして、本市の総合戦略につきましては、第二期がスタートしております、昨年度からスタートしたところです。事前に配布させていただきました第二次湖南省総合計画後期基本計画の冊子に、第7章の重点プロジェクトに位置付けられているものでございます。この策定の背景としましては、「出生率の低下による人口減少に歯止めをかける」、「東京圏への人口の過度な集中の是正」を目的に国の方で、まち・ひと・しごと創生法というものが制定されております。こちらの趣旨につきましては、こちらに書いてある通りですので省略させていただきます。

3ページ目でございます。取組と施策効果の考え方としまして、急激な人口減少、少子化進展に歯止めをかけることとしまして、自然動態と社会動態へ働きかけます。自然動態というのは出生と死亡の差、社会動態というのは、転入転出の差になりますが、こちらの働きかけとして、強みのある産業の振興でありますとか、新産業の創出、子育て支援や移住定住の促進を進めていくということです。そこで目指す政策効果につきましては、合計特殊出生率を、2060年に国民の希望出生率の1.8まで引き上げていくというものでございます。直近で湖南省の現状申し上げますと、2021年で、合計特殊出生率は1.35になっております。県におきましては、1.47、国におきましては1.36ということで、湖南省の合計特殊出生率は、全

国平均をほんの少し下回っています。

4 ページです。過去の人口推移、まずは総人口の方ですが、外国人を含んだ総人口推移としましては、住民基本台帳ベースのグラフになります。ここ 2018 年からは増加傾向にありましたが、2021, 2022 年では減少傾向にあります。参考に 2020 年の国勢調査、皆さんもご回答いただけたかと思われませんが、その中で、滋賀県全体では 0.05%人口が増えておりますが、湖南市におきましては、0.31%の増で人口が増えております。また 2020 年の人口推計予測であります 53,640 人という数字が出ていましたので、そういった意味では総合戦略の取組成果などにより 54,460 人、押上げ数によると 820 人ほど人口推計予測を上回っていることとなります。目標においても 54,498 人としておりほぼ目標通りとなりましたので、次の 2025 年人口においても目標の 53,967 人に向けて取り組んでいきます。

5 ページお願いします。こちらの方、先ほど総人口でしたが、日本人と外国人で見た時の人口の推移でございます。まず日本人は、この 5 年で 1,202 人減っております。さらに直近でいきますと 51,320 人ということで、1,292 人減っています。一方、総人口が大きく減少していないのは外国人人口が増えているというところで、この 5 年で 988 人増加していたという結果となっております。ただここ最近につきましてはピークから 134 人減っているというところで、コロナ禍の影響があると考えられます。

続きまして 6 ページ目ですけれども、総合戦略の方向性ということで、三つのプランと目標指標というのを掲げております。まず、三つのプランです。働く場の創出プラン、ひとへの投資プラン、まちづくりプランで、まず働く場の創出プランにつきましては、安定した雇用の創出としております。

ひとへの投資プランにつきましては移住定住促進や、関係人口の創出といいまして「関係人口」がキーワードですが、市民ではなく、観光客でもない方々が市のまちづくりに関わっていただける方で、昨今注目を受けているところではございます。また基本的方向 3 というところで、若い世代の結婚出産、子育ての希望を叶えるということでございます。

三つ目のまちづくりプランにつきましては、時代にあった地域づくりや、誰もが活躍できる社会、安心して暮らせる住環境整備をつくるということでございます。

続いて 7 ページ目です。総合戦略の取組状況の総括を簡単にご紹介いたします。二本立てというところで、産業振興・働く場の確保と、市民主体のまちづくり・移住定住促進を進めているところでございます。産業振興・働く場の確保につきましては、農福連携であるとか人材確保、あと観光の分野に様々な地域資源を活用して積極的に取り組んでいます。市民主体のまちづくり・移住定住の促進につきましては、まちづくり協議会を中心に地域主体のまちづくりや、令和 3 年度からスタートしております SDGs の推進ということで、エネルギー・若者まちづくりの事業を展開しています。それと移住定住の促進につきましては、地域おこし協力隊のことですがローカルベンチャー事業や空き家の活用、さらには健康寿命の延伸のプロジェクトといった健康の取組も同時並行で実施しているところでございます。

続いて 8 ページ目です。地方創生推進交付金活用事業の一覧でございます。令和 3 年度実

施事業としては下記にあります「要因分析を活用した健康寿命延伸事業」これは県との連携事業でございます。それと「湖南省 SDG s 未来都市計画事業」です。

詳しい事業の説明について9ページです。令和3年度に実施しましたのは心の健康に関する取組として吉本興業と連携し鉄拳動画を制作しました。また健康食の開発として東寺献上ごぼうや朝国しょうがを活用し体の健康に関する魅力的な取組を行い、そのほかコロナ禍で実施はできませんでしたが、ヘルスケア事業やトレイルラン事業など食やスポーツを通じて、健康に対する意識付けを行う目的での取組も行っております。

10ページでございます。湖南省SDG s未来都市計画事業につきましては令和3年度からスタートしたものでございます。若者が主体的にまちづくりに参加できる「若者のたまり場」としてこなんSDG sカレッジ事業や、甲西高校と連携して地域資源教育推進事業を進めています。また、湖南省は令和2年7月にSDG s未来都市として認定されておりまして、その翌月にはゼロカーボンシティを宣言し、全国に先駆けてエネルギーの取組も積極的に行っています。地方創生の取組は以上でございます。

市も様々な取組をしているところではございますが、予算や人員に限りがある中で、こういう取組はどうかとか、もっとここに集中的にした方がいいのではないか、もしくは思い切ってやめたほうがいいのではないか、という率直な意見もうけたまわりたいと思っております。

以上簡単な説明ではございますが、本日はどうぞよろしくお願いいたします。

職員B) 続きまして、次第の第4、これから議題に入らせていただきたいと思っております。本日の全体のコーディネーターには、委員1様の方をお願いをしていきたいと思っております。ご出席の皆様につきましては、本日また時間制約や、皆さんの発言機会を確保させていただきたいために、できるだけたくさんご意見をいただきたいんですが、簡潔にお話をいただくと、またそういったご協力をお願いできたらありがたいです。よろしくお願いいたします。また本日茶話会という名前をつけてございますが、和やかな雰囲気、日ごろの生活で感じておられるようなことを、お話をお聞かせいただければなというふうに思いますので、ご協力の方どうぞよろしくお願いいたします。

委員1) それでは成果が上がるようにコーディネートしてまいりたいと思っておりますのでご協力よろしくお願いいたします。茶話会という和やかな雰囲気は私も大賛成で、別の計画を策定しているところ、何か自由な発言ができる空気がなかったというふうに市民代表の方からいただいたことがあります。私たちは時間も取ったし、何かありませんかと一生懸命誘導したんですけど、どうもそういう雰囲気になっていなくて、私のような場になじみのないようなものが発言しにくかった、そんなこともあって茶話会という言い方でこの集まりを開いています。その辺りの意図について、受け止めていただき発言をいただければと思います。

それからもう一つ、委員の名簿を見ていただければわかりますように、我々は評価委員、

ですから、やはり、自由に発言することはもちろんあります。大事なことですけど、市民の皆さんに向かって自分たちが評価者としてきちんと、必要なことを質問したり、訂正をお願いしたり説明をお願いしたりすると、そういうスタンスの位置付けもやはり必要ですので、ちょっとその辺りの微妙なバランスといいたいでしょうか、皆様の方で、気をつけてご発言をしていただければと思います。

事務局の方からございましたように最初は自由ということで、二つ目の議題のところは、事務局が重点的に意見を聞きたいところに絞ってという二段階の構成で議論を始めていきたいと思います。

まず最初に、政策評価パッケージシートの評価を通して、今後のまちづくりを考えていく際に、何か感じたこと、気になったこと、そういった部分について、ご自由にご発言をいただきたいということでもあります。すでに質問の形で出されて担当部局から答えをもらったところもありますが、質問が重なっても構いませんので、ご発言をいただければと思います。

もう1点最後に申し上げておきたいのは、担当部局の次長級の方が皆集まっているというのは、こういう政策というのは縦割りにならないようにしないと本来実現しないものなんですが、行政というのはもともと縦割りで作られておりますので、今回このような貴重な場をもって、ぜひ考えましょう。横に繋がって、全庁的なものになっていくような、そんな取りまとめ方に、コーディネーターとしてはしていきたいと思っておりますので、皆さんの方は、どの部署の仕事かなということあまり気にされないで、ここはどうしたらいい、こう感じている、ここはいいと思ってるなどご発言いただければ、私の方で横に繋ぐようなまとめ役をしていきたいと思います。

大変失礼ですがけれども、順番に最初のところをご発言をいただきたいと思います。先ほどの挨拶と同じ順でよろしく願いいたします。

委員2) 私が一番感じたのはSDGsのことで、何か難しいことばかりが並べられてるような感じでいち住民としたら、ゴミの問題とかもっと家庭に直結した問題がたくさんあると思う。今、近くにあるゴミステーションを見ても、分類の仕方も変わったんですけども、何も結局変わってないというような形が、現実見えてきているので、まずそういうところから考えていただけたら、一足飛びにSDGsですべてをいろんな方向じゃなくて、まず、ゴミ。本当に今ゴミステーション、マンションとかのゴミをみてももうプラスチックであったり生ごみだったり、全然分けられてないというのが現実的なので、いち市民としての考えですが・・・。

職員D) ありがとうございます。環境経済部です。SDGsを中心的に取り組んでいますけれども、もっと家庭に密着したゴミの問題等の啓発が必要ではないか、ご意見ありがとうございます。

確かに多様な方がお住まいになっておられまして、ゴミの分別の問題については、各方面

からもうちちょっと啓発したほうがいいんじゃないかといったことをお聞きしているところ
でございますので、SDGs、リサイクルとか、そういったことを前面にうち出しながら、
ゴミの分別等、啓発を進めてまいりたいと思いますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

委員1) ありがとうございます、例えばEUの中でもフランスなどは、今廃棄物に関する法律
が非常に厳しい法律で、年次ごとに順々に進んでいく、そう法律を作りまして、例えば食品
のいろいろな余ったものを廃棄してはならないと義務付けたり、いろんなプラスチックの
容器についてもそうです。多分、今の日本のリサイクルに関わる処分はすごく進んでいると
いうわけでは決してなくて、市民の皆さんの自発的な意識の協力みたいなので、ある程度支
えられていると思うのですが、おそらくこの第二期の戦略をやっているところでもう少し
厳しいアイデアが、ヨーロッパからいくつかの国から影響を受けて入ってくるのではない
かと私は思ひます。ただその前にそれを理解できる市民を育てておくということが非常に
大切だと、その点もあわせてご理解をいただければと思ひます。では、委員3さんご発言
をお願いします。

委員3) 1点目ですけれども、ふるさときらめき湖南づくり寄附事業はふるさと納税です。
執行額は非常に大きな数字、予算や執行額が上がっているんですけども、これが実際行政
の中の資金としてどの程度のものが返礼金として、また実際にどれくらいの寄附が行政に
プラスになっているのか、そういったことでどういった事業が実施させたかのかなという
ところは、あまりどこの行政も出されていない印象がを受けています。私自身、湖南市を積
極的に見たこともないので、偉そうなことを言えないのですが、お隣の栗東市においては、
一部のふるさと納税で集まった資金を、子ども食堂の運営費として予算を取って、使われる
目的をわかって寄附をされるというような住み分けをされている事業があります。

これは栗東青年会議所さんとか多くの団体が協力して議事を調整されて実現したという
ふうに聞いているんですけども、何かそういうような目的を分けたような形でのふるさと
納税が湖南市でもできないものかなあとそれを受けて考えにいたりました。またそういう
ような考えを、即答は多分無理と思ひますがお考えをいただきたいと思ひます。

それと、SDGs、先日ちょっとある会合に出席できなかったのですが、ウェブ配信の中
で、最後に講師の先生に質問があつて、SDGs日本で過熱しています。ヨーロッパや欧米
はSDGsあまり騒いでいません。まあ、おそらく広告代理店の戦略によって企業が広告費
を使っているというような部分があるのだろうと、おっしゃってございましたけれども、実際
先生がおっしゃったとおり産業界においては、法律とかでヨーロッパは非常に厳しいもの
があつて、EVなど電気自動車に切り替えますよ、そのようなことだけはいっぱいできるの
ですけれども、日本の今の実態としては、企業がいろんなところに出しているが実際中身が
追い付いていない。先生がおっしゃったとおり法律で方向性をそこにもっていくとか、そう
いったことが整っていない、亀岡市でしたっけ、ポリ袋を一切販売しないとか、小さな単位

でできるようなことから変えていくということも取組としては面白いのかと、湖南省ならばということであれば、バイオマスであれば割り箸を使ったら必ずそこに出すといようなことがあってもおもしろいのでは。何かそういういったことがありましたらふるさと納税の件も、お話を伺えたらと思います。

委員 1) ありがとうございます。

ふるさと納税は事務局側から今のご質問意見に対して説明をお願いしたいと思います。

職員 B) 総合政策部です。ふるさときらめき湖南づくり寄附事業につきましては、手元資料の 3 ページとなっております。現実的に 3 年度の寄附実績といたしましては 1 億 6 千万となっております。この内訳ですけれども、寄附額の 50% っていうのは、経費として出ています。その中に、特設サイトの委託費であったり、ポータルサイトの委託費、当然 3 割が謝礼返礼品となっておりますので、実質は 50% のうちの 30% は返礼品です。あと 20% は広告料であるとか、送料等その他経費になっていきます。そう考えますと、単純計算ですけれども約 8 千万が、まず寄附としていただくことになるということでございます。

逆に、湖南省の方は他市に寄附をされます。大体それが 2 千万近く、控除としてあると考えますと現実的には 6 千万、実質的に寄附いただいた収益と考えています。

その寄附をいただいた使い道なんですけれども、湖南省ふるさときらめき湖南づくり寄附条例というのが湖南省ございまして、その第 2 条の方で、天然記念物ウツクシマツの保全に関する部分であるとか、観光振興や図書館の充実とか、幾つかのカテゴリーを設けさせていただいております。寄附をされる方は、基本的にそのカテゴリーに基づいて、私はこの事業に使って欲しいよ、というのを選ばれます。ですけれども、現実的には、市に任せるとするのが大半でございまして、それは逆に市の方で福祉教育のいろんな施策の中に充当させてもらっているケースです。

もう 1 点、委員 2 様からお話をいただきました、ふるさと納税のあり方ですけれども、それは多分、目的型のふるさと納税といまして、広島県の方でも、以前犬猫の殺傷処分を防ぎたいとかいう特定の目的で、ふるさと納税の寄附を集められるということがございます。かなりの額が集まったりします。本市におきましても、そういった部分については、今後考えていく必要があるなということで、既存事業にあまりあてると、それは目的型になりませんので、新たに湖南省としてこういうことに取り組みたいので、そういうものに対して、目的を決めた上で寄附をいただくというのも考えていく必要があるというのは以前から考えていることとございます。どちらかというクラウドファンディング的なイメージになってくるかと思えます。

委員 1) ありがとうございます。今の説明していただいたことについてどうですか？

委員3) ありがとうございます。先ほどちょっとご紹介した通り栗東市の場合は目的として子ども食堂にあてられています、湖南省は調べていますと四団体しかないんです。規模も小さくて。それぞれ地域まちづくり協議会さんを中心としたところもあるんですけども、政府では、子どもの居場所づくりに向けての事業をしようとしているところもあるんですが、例えば若い学習、指導能力のある方に来ていただこうとすると、アルバイト代を出さないと来ていただけない、そうすると資金がなく、学習の場として活かさない、そういったことをおっしゃってまして、そういったところを逆に我々の団体でできる仕組みづくりが必要だということ、いろいろと考えさせていただいているところです。ぜひとも湖南省の方で良いお知恵をいただいて、前に一歩進めて行けたらと思いますのでご協力よろしくお願いたします。

委員1) ありがとうございます。それでは次お願いたします。

委員4) 湖南工業団地の方で働かせていただいているんですけども、基本的に皆さん、車で通勤されてるかと思うんで、あまりバスを使われないんですけども、新しく採用する時に、採用される方がだいたい車で来られるのが前提になってしまって、この工業団地に魅力を感じられない方々が多く、採用までには届かないとかがあって、職場のほうでも、栗東工業団地の方の直接すぐ行けるようなルートとかあったらいいのにねとか、もうちょっとそういうことがあったらなんか、魅力的な職場っていうか働ける場所があるのにねとか。また、働きたいのに、車がないのでちょっと来れませんとか、そういうところで負けてしまうところがあるので何かコミュニティバスの話もありますけども、ちょっと、お考えがあったらまた後でもいいので聞かせていただきたいと思います。

委員1) ありがとうございます。自家用車以外の手段で、どうやって工業団地と草津線や公共交通をつなぐのかということで、何かコメントをいただければ、よろしくお願いたします。

職員E) 都市建設部です。今、バスのお話がありまして、この湖南工業団地さんの方にも、コミュニティバスを定期便といたしまして、走らせていただいております。先ほど通勤に関しましては今草津線の、複線化を進めておりまして、JRに要望させていただくことと、それと合わせて団地団地に、ちょっと実証的に直接三雲駅から湖南工業団地をルートしていく朝と夕、通勤時と退社時ということで今、実証的にちょっと実験をやらさしていただく方向で、そしてアンケートも取らせていただいております、その先ほど申しました複線化の事業に伴いましてできるだけ公共交通を使っていたらこうということで環境にやさしいことでもありますし、ある一定の定時的な時間の規制が計れると、車ですと何があるか、事故があったり、そういった問題が出てきますので、できるだけ公共交通を使っていたら環境にやさしいまちづくりを行ってこうということで、またのちほど別の事業で全体

の事業の中でご説明をさせていただきますので、よろしくお願ひしたいと思います。

委員1) ありがとうございます。では委員5さん、よろしくお願ひいたします。

委員5) 皆さんがいろいろ言われている中で私が何を言えるか考えていたのですが、高校生が市にお世話になる形でいろいろ協力をさせていただいているので、特に湖南省SDGs未来計画都市は、授業の中で関わらせていただいているのでそこを考えたときに、生徒は市のこと知らないですよ。私も今日初めて東寺献上ごぼうをやっているのを知ったりとか、朝国しょうがの話とか知ったんですが生徒は知らないんです。それこそ、そういうのを、生徒の探求学習のテーマに落とし込めないかなと。それを、発信できる、まとめて発表はさせているのですが、外に向けて発信できるような仕掛けになっていったらいいのではないかと、っていうふうに思っていました。

例えば、市がやっているいろんなプロジェクトに関しても、多分広報はされているはずなんです。広報こなんに出しておられるはずなんですけれども、最近PDF版がネットにも上がっているんですが、生徒は知らないんです。だからそれも、もちろん実際に生活しているお家を切り盛りされるお母さん方は見ていると思うんですけど、知らない人が多いので、もっとたくさんの人に見てもらえるような仕掛けをしていけばいいのではないかと、それでよく出てくるのはSNSをつかった広報だといわれるのですが、SNSを使うことに関しては高校生は無茶苦茶長けています。多分ごぼうとかのプロジェクトに関しても、高校生と一緒に、もしやる気になって入っていったときに、それを広報してくれって言ったら、写真映えするところないか探して写真をInstagramに上げるとかツイッターでつぶやく、動画作るのも上手です。私たちの思わぬところで、いろんなことをしてくれるので、何かそういうふうに高校生とかをうまく使えないかなというのをちょっと見て思っていました。

今度のSDGsカレッジに関しても昨年度から始まっていて、プロジェクトに出てくる学生さんの名前うちの卒業生が何人もいます。だから、今年の湖南省の方に依頼をされて、学校の授業の中で、10分時間を取って、流す時間を作りましたが、そういう事をもっといろんなところに巻き込んでいく。そうやっていけば何ができるかっていうと、多分湖南省が好きだから、外に行って一旦こういうものを学んできて返ってきて、湖南省のために働きたいっていう意欲が出てくるのではないかと思いました。

委員1) ありがとうございます。担当課にお答えいただくって話ではないと思うんですけど、今の若い世代にどういう風に取り組んでもらうか、非常に根本的な問題かと思ひます。今の話で二つ感銘を受けたことがあって、おっしゃる通り、高校生は割と思ひているよりナイーブな形で、いろいろなものに対して関心示した発信することがあるけれど、一方で一般論で言うと、最初から全く関心がないということだと思ひます。ここで大人が勘違ひするのは、先ほどから出てくるんですけど、こんな素敵なおとこだていうふうに、皆さん

が言うところから入って、地域のローカルプライドを持ってくださいっていうところから入っちゃうんです。なんかそれは、おそらく、この仕事をしてきて違うような気がします。やっぱり地域の新しい面白いところや、古くて素敵などころを発見することは、その世代の人たちが、その人たちの感性でやることであって、上の世代が感じてることを伝えるところから始めていくと、なかなか付いて来てくれないなというのが、一方で感じています。

それからもう一つ、難しいのは、結果的に湖南出身の人たちが湖南省に帰ってきてくれてという話だけでは、今日紹介した戦略ではないんです。端的に言うとよその人たちに来てくれと言っているわけです。そうすると、湖南省の魅力を感じる人達はよその人が来ることでその魅力が増すというふうに思うのか、できれば自前で人口再生産していったら嬉しいなと思って言うか、根本的にここはふるさとを考えるうえで一番難しいところなんです。ですからやっぱり中高生の人たちが、外の人たちと出会ったり、交流したりすることが楽しくて、わくわくできるという感覚を持っていけば、そういう湖南の未来像になっていくと思いますし、そうでなくて、仲間内で小さく固まりたいということになるとそうでなくなると思うので、このあたりもアイデアとしては先ほど紹介いただいた、SDGsカレッジのように外に向かって開かれるそういうところに魅力を感じる学生たちが少しでも多くなるようにしないと、だんだん内向きに閉塞感が漂ってくるコミュニティづくりになっていくのかなと思います。担当課の皆さんで今の委員5さんの意見に何かあればお願いいたします。

職員B) 総合政策部でございます。今おっしゃっていただいたお話も後程意見をいただきたい若者のまちづくりの部分であり、いろいろ議論をしていただきたいと思います。簡単にちょっと今のお話の中で、やっぱり高校生中学生っていうか、すごく大事なキーワードと思っています。以前ちょっと甲西高校の生徒さんが、いろいろそういった政策提案をされる時にアンケートをとっていただきました。その一つに特産物を知ってるっていうのがあって、小学生のときは結構地元の特産物を知ってるんです。それが中学生になると結構少なくなってくる。忘れるのか、触れ合う時がなくなるからなのか。理由はわかりませんが、それが高校になると、もっと減っていくという状況です。ですから、やっぱりそういったところで、どうしても小学生とかは、地域まちづくり協議会とか、イベントに参加したりして、中学生では若干参加から参画に変わるような位置付けもあるんですけども、高校になると、当然市外に出ていかれるので、どうしても薄れていくようなこともあるんで、今、先生がおっしゃっていただいたような形で、もっと高校生が関われる仕組みを作っていく必要があるかなと思います。ただまちづくりの中で、当然高齢者の方にもいろいろ聞いていただきたいという思いもありますんで、情報発信媒体については、やっぱり旧来の媒体と、あわせて高校生の方々がどういう媒体で、これをきっかけとしていただければいいというのは、十分考えていきたいなと思います。

委員1) どうもありがとうございました。時間の管理上、順々に発言をお願いしていきたい

と思いますので、委員6さんよろしく願いいたします。

委員6) 私はこの会議ではいろいろな方々の意見を聞けるということで楽しみにしてきました。東寺献上ごぼうとは別に、まさに化石燃料を販売して生計立てるものとして、燃料ですごい興味がありまして、特に湖南省はブラジルの方がすごく多いです、私自身も友達や先輩にブラジルの方がたくさんいます。恥ずかしながら最近そのブラジルがバイオマス大国ということを知りまして、事前質問をさせていただいたところ市内の業者製造施設があるという回答を見て、ワクワクして可能性を感じています。バイオ燃料ではブラジルの場合サトウキビが主なんですけれども、以前近畿大学の教授さんが、いも発電お話ししてまして、これもすべて、サトウキビ、トウモロコシ、いも、そういった形で燃料に使っていただけるということで、精製などの施設は市内にあって、それを利用しているという回答を見て、全く知らなかったんですけども、得意の妄想が働いてワクワクしているのもう少し詳しく教えていただけたらと思っております。

委員1) ブラジルは確かに日本とちょっと違ってバイオエタノールね、日本でいうディーゼルも軽油に当たるものがあるってよく作られてるということだと思うんですけど、代替燃料の事について何か、担当課からあればお願いできますでしょうか。

職員D) ご質問に回答してる内容が、バイオディーゼルで、これについては市内ではなくて、県内でそういう業者がございまして、家庭から出る廃食油を収集いたしまして、その業者でバイオディーゼルの燃料に変えていただいています。また、その燃料を市内で活用しているという事例は今のところございません。ここに書かせていただいている木材ペレットについては市内でペレットを作っている業者がございまして、廃材を使って薪ストーブ等のペレット燃料に活用されています。

委員1) はい、ありがとうございます。では委員7さんよろしく願いいたします。

委員7) よろしく願いします。メディアの側から、自治体の情報発信とか、どんなことをPRしているかとか、そういったことが気になっています。湖南省ですと、近年、猫耳のVチューバーや吉本の鉄拳さんのコラボ動画配信をしたりされているのを記事でも取り上げることもあります。イメージを売るっていう、ちょっとしたもの珍しさみたいのがあるので、メディアにも取り上げられやすいと思うんですけども、反面実際それがどれぐらいのUターンに結びつくかとか、そういう意味では、なかなか検証がしづらいと思います。いただいた政策評価パッケージシートにもあるように、鉄拳コラボの動画を見ないとふるさと納税のキャンペーンに関するクイズの回答が分からないなど、関連づけをされていらっしゃるんだなということは伺いました。

実際そういったものも、PRの一助になると思うんですけども、よりそこで暮らしている方も具体的な取組であったり、市の魅力だったり、もうちょっと深く込んだ情報を直接もらえるような、そういった例えばユーチューブならユーチューブ、そういったようなものを見たいなと思うことが多いです。地域おこし協力隊の方々がそれぞれ取組をPR動画で出したりとかはやってらっしゃると思いますし、見たことはあるのですが、そういった取組は市内の一部のものでしかないと思うのですが、それぞれ産業界ではどんな特徴があるのかとか、市で教育やほかにはないこんなこと力を入れているとか、もうちょっとわかる発信が多いと、暮らしたいとか、行ってみたいとか気持ちを掻き立てるのではないかなと思います。

これはもう行政だけでやることではなく官民で協力して、各分野でやっていくことだと思うんですけども、今年、商工会の青年部の方がそれぞれの事業所のリーダーの、こんなことを頑張っていますとか、取組等を紹介するポスターを作ったのですが、実際、顔を出すとか、名前を出すというある程度の情報を出すリスクはあるのですが、逆にこういう人が、こういう事業やっているんだと、ストレートに見えて非常に好感が持てますし、こういうところだったらこんな仕事ができる、こんな暮らしができる具体的なことが浮かびやすいと思いますので、鉄拳動画のようなあのようなイメージを売るといってそのものは悪いことではない、それもひとつの方法だと思うんですけども。

具体的にここの市に行って自分は何ができそうか、住んでみたいなとかと思わせるような情報発信を強化していただいたり、またはそれを民間がするなら行政がどこまでアドバイスする、つなぎ役をする、そういった形でしてもらえたらいいのではないかと思います。

多分猫耳Vユーチューバー、やっぱりどうしても、売り手の一方的な発信になるとなかなか内輪受けで終わってしまうことが結構多いと思います。どこの自治体も一生懸命ゆるキャラ作って消えたり、最も苦労されてるんだらうなとわかるんですけども、具体的にどういうふうに発信できるかということを考えてもらいたいと思います。

委員1) ありがとうございます。今のお話について、現状報告があればお願いいたします。

職員B) 総合政策部です。今おっしゃっていただいたみたいな、市の方でもラインやホームページ、湖南市メール配信サービス、こなんいろアプリとか色々メディアを使っています。やっぱり対象を誰に持って行って、誰にこれを訴えたいか、市でもPR動画を作っているんですけども、そういった中で、移住定住をされる方にしっかりと湖南市っていうものがどういうものかとかいうのを、見せてはいるつもりなんですけども、おっしゃっていただいたように、もう少し体験型とか、職員採用もそうですけれども、ただ単に職員募集のPRをするだけじゃなくて、実際働いているところを映したりすることで、よりリアルにここで働いてみたいというのイメージを持たれるようなので、もう少ししっかりしたビジョンについて、求めていきたいなと思います。ありがとうございます。

委員 1) それでは、委員 8 様からご発言いただければと思います。よろしく申し上げます。

委員 8) 地方創生の取組についての中の 9 ページに中学生のアイデアキャンプというのがあったのですが、気になったので具体的に説明していただけると幸いです。

職員 B) 総合政策部でございます。中学生アイデアキャンプと申しますのは、平成 30 年度、令和元年度、湖南政策アカデミーという若者まちづくりの前身となる取組をしていました。今の湖南 SDG s 前の取組ということで、夏休み中学生の方にアイデアキャンプと称しまして、何日間か集まっていただいて、自分たちの新たなスポーツを開発してもらおう。そういったところ 5 名が参加してくれました。その 5 名と、私も参加したんですけども、誰でもできるスポーツを自分たちで開発して、それを秋に行う健康フェスティバルっていうのが、湖南市にあるんですけども、そこで実際にその子たちがそれを披露してくれるということで、自分たちが誰でも気軽にできるスポーツということで、ポッチャのようなスポーツを開発してくれました。そういったものがアイデアキャンプとなっています。

委員 8) ありがとうございます。続いて、質問があるんですけども、先ほど職員 B さんから図書館の充実というキーワードが出ていたと思うんですけども、それについて具体的にどういう分野を充実したいのか、図書館に併設して中高生のたまり場をつくりたいなど具体的な取組についてお聞きしたいと思います。

あと、先ほど工業会の委員 2 さんが子ども食堂を通して子どもたちの居場所づくりをしたいと話をされていましたが、小学生は学童があって、居場所が学校と家庭の外に居場所があると思うんですけども、中学生高校生はなかなかサードプレイスと呼ばれる場所が減ってきているんじゃないかなと思っておりまして、物理的な中学生高校が集まれる場所があったらいいんじゃないかなと思うんですけども。それについてご意見いただければ幸いです。

職員 B) 総合政策部でございます。先ほどは図書館の充実って言いましたが、ふるさと納税の中で、寄附をいただいた寄附の対象として、その寄附していただいたお金を使う先が図書館の充実っていうのが一つ条例上にあがっております。図書の購入費に寄附をあててくださいよという選択肢がありまして、そのご説明をさせていただきました。もう 1 点そういったたまり場のことなんですけれども、そういう後でお話をしようと思ったんですけども、今、若者のまちづくりをやっています。でも将来的にその若者が気軽にたまれる場、たまり場っていうのも考えていきたいなというふうに思っています。

そんな中で現在の子ども食堂の話がでましたけれども、子ども食堂をある中学生、夏休みに実際その小学生がよっていただく場に、自ら中学生が参加して、そこで宿題を教えたりそういった取組も一部地域まちづくり協議会で進められています。将来的にはその高校生

中学生は、集まれる場を作りたいんですけども、やっぱりそこに若者だけじゃなくて、高齢者の方や地域の方が気軽によれるような場を将来的には作っていきたくて考えてます。それと、今のこなんSDGsカレッジの取組と並行して進めていきたくてというのを考えています。

委員8) ありがとうございます。

委員1) ありがとうございます。サードプレイスとは自分たちの集まれる色々な新しい居場所をそうやって呼ぶ人がいるのですが、実はうちの僕の学部のゼミで、なかなか衝撃的なやりとりがあって、びっくりしたんです。どういうことかっていうと、中国の留学生がいて、彼女はアメリカや他の留学生と当然仲良しなんです。日本で例えば、授業でそういうサードプレイスいわゆる第三の場所の話をしたりとか、たまり場として、図書館などがいろいろなかたちで使われるとか、日本の場合、ちょっとひと休みする公園がどこも京都にないし、何かお弁当、コーヒーを飲もうと思ったら何もないんだけど、日本人どうしてるのって聞いたら、日本の学生たちは何を質問されているのかわからなくて、そして聞いたあげくは、いらぬというのそういうことなんです。

どうしてかっていうと、家で十分と。何かあったらどうするのって、友達に家に来てあるいは友達の家に行く。だから町なかに出て、わーと老若男女が賑わって楽しむような昔の商店街のようなイメージの場所みたいな、そういう場所にわざわざ行きたいと思わない。サードプレイス作ってもらったって、そこで交流をわざわざ知らない人と交えてやりたいと思わない。

そもそもそのアメリカ人やヨーロッパ人や中国の学生たちが違和感を感じている日本のまちづくりに対して全然違和感がない。だから今、言われたようにどうやってたまり場をつくっていくのかは、たまり場って何なんだろうというところからあなたたちはコンビニの前がたまり場なんだねと、皮肉にいわれたのですが、まずそうだよなってうなずかざるを得ない。人との交流に対する図がないライフスタイルなんです。ちょっとその辺はもうちょっと大きいシナリオの中で、今の話が出てくると、おそらく機能しないのかなあとと思いますが、ぜひ今後、今日はそこまで進めないと思いますが何年かかけて工夫していく必要があると感じていました。最後になりましたが委員9さん、よろしく願いいたします。

委員9) 今日は観光協会からきています。いろんな行事やいろんなことを、観光協会の中でやっていて、商工会もなんですけれども、湖南三山やオートキャンプやトレイルランは成功のほうかなと思うんですけども、もっと小さい行事もいっぱいやっておりまして、みんななんかバラバラで、観光協会は観光協会、市は市、商工会は商工会で他がやっていることを知らない。こんなにやっていることを市民の誰も知らないというような状況が続いていて、何とか一つにならないかなと、どこか発信していただけたところがないかなと思いつつながら、

ボランティアさせていただいているんですけど、一方的に市からの発信はホームページや広報でおられるんですけど、興味がないと見ないというか、若い人たちが興味を持って自分たちから発信してもらえとか、そういうシステムがあったらできないかなと思いつながらボランティアさせていただいております。

委員1) ありがとうございます。ほんとに今の、担い手がさまざまな事業をやっていることに対して、お互いの認知がうまくされない状況をどう突破するのかというのは委員7さんが言われたように発信の仕方の問題も含めて誰もが抱えていて、すぐに解決しきれない問題なんだと思うんですが何かそれについてコメントがあれば。

私自身、できるだけやっぱり多様なメディアの手段もありますし、そのメディアを活用する人たちっていうのは、例えば、紙媒体であれば地域の人たちとか、町内会のメンバーである人たちとか、医師会のメンバーである人たちとか、手段が違ってくるっていうのは、今の現状になっていて、みんながそれぞれのやり方、得意なやり方をみて選んでいるので全部やればいいんですし全部やっていると思うんですが、うまくそこへ協調して戦略的には、すごく難しいと感じますが、現状でどんな思いをされているのかお聞かせください。

職員D) 環境経済部でございます。委員9さんが今おっしゃったことは、市の方もそう感じておまして、観光振興についても、様々なメディアや媒体を使って、市としては発信を試みるんですけども、やはり先ほど委員1さんがおっしゃったように、興味がないと見に来ないという、現状もでございます。若者の口コミとか、そういったもので一気に広がると、そういったある一定の広がりをみせるのかなと思っているところもあるんですけども、なかなか、そういったところに結びつけようと思うと、先ほどからもあるように、そういった若者に興味を持ってもらうか、若者だけじゃなくて、当然年配層に向けた観光の振興もございますので、そういった現場の方が目にする機会をどうやって作っていくのか、そういったことは、非常に課題と思っていますので、今後またいろいろ研究をしながら進めていきたいと思っております。

委員1) ありがとうございます。それでは最初、皆さんに感じたところを評価コメントいただくという議題で進めて参りましたが、二つ目の議題の方、担当課の方から特にこの点について、皆さんの方から評価コメントをいただきたい、もしくはいいアイデアを寄せていただきたいので二番目の議題に進みたいと思います。事務局の方からご説明をお願いいたします。

職員A) それでは第2のところですが、資料の中にごございます。特に、今日お集りの委員様にご意見を伺いたいというような項目について、担当部局より、三分程度で説明をさせていただきますので、何でもまたご自由にご意見をいただくと助かります。時間の関係があ

りますので、簡潔にご説明を申し上げたいと思います。

最初に、1 番目の総合政策部のほうから、こなんSDGsカレッジによる若者のまちづくり事業と合わせて、ふるさと納税事業をよろしくお願いします。

職員B) ふるさと納税につきましては先ほどちょっとお話もさせていただいたと思うんですけども、皆さんご存知の通り、全国的にはふるさと納税は行われますけれども、過当競争となっています。本当にふるさとを持った気持ちで納税をしているのかっていうところはかなり疑問があります。そういったことで、湖南省では、今どういうものが5位までを占めているのか、お肉と離乳食というこの2点になっていまして、今回、こなんのふるさと納税プレミアムという冊子を配布させていただきました。

実は、どういう戦略をしたらよいのかということで、6月に東京の方でこれうちの「銀座しのはら」という店、湖南省出身の方ですけども、二つ星ミュッシュランのこの方に、ご協力いただきまして、湖南省産の牛を育てるまるさん牧場さんのお肉を料理してもらいました。要は滋賀県内で、近江うしって言われる牛を育てているのは近江八幡市と竜王町と湖南省だけです。それ以外は加工して近江ぎゅうといいます。この近江うしが湖南省のまるさん牧場にありまして、こういったものについて、もっとしっかりとPRをしていきたいなというふうに思っています。

ただ、もう一つは毎年1億5000万ぐらいのご寄附をいただいています。ということは、言い方変えれば、お肉が目的の方がおられれば、毎年湖南省に寄附をしてくれる方が1億5000万円分の方がおられるという考えができますので、そういったリピーターの方をしっかりと分析して、どう、リピーターの方に対してアプローチをかけていけばよいか、体験型も含めて、そういったもし何か、市外の方からの委員さんのご提案とか、市外の方がもっとこういうのすればいいよっていうのがあれば教えていただきたいと思います。

もう1点は、こなんSDGsカレッジですが、お手元の方に、パンフレットが先ほどから皆さんご存じの通りみてもらっていると思うんですけども、こちらは平成29年度に未来湖南省政策コンテストっていうことでスタートしました。その翌年の2カ年は大学等と連携で、政策学を中心に市の課題を若者が発見して、それをいろいろアイデアを出して、提案するという仕組みを作っていました。ただそれだけではなく、若者の自分たちが地域に出て行って、いろんな人に出会って、自分には何ができるのか。要は気づきで、こういったもので、自分が今後どう関わっていったらいいかなと、そういったものを作っていきたいと考えまして、昨年度から、このSDGsカレッジを作っております。

こういった取組をずっと続けて行きたいんですけど、やっぱりルーティンで、行政が主導でやるんじゃなくて、若者自らが運営メンターとして、来年度にも関わってもらえるように考えてますし、プラスアルファで湖南省のグローカリストとして昨年度48人認定しています。グローカリストとはグローバルとローカルの造語で地域のことをグローバルに考えられる人達を認定した証のようなもので、本市としては、直接関わってくれたり、間接的

にも関わってくれる、こういったような仕組みを作ろうと思っています。こういったことについて、さらにこういうことをしたらいいよ、もしくはご意見等ございましたら、よろしくお願ひしたいと思ひます。

職員E) それでは2番、都市建設部でコミュニティバスの運行事業ということでご説明をさせていただきます。先ほど委員4様の方からも、コミュニティバスのことでありましたけれども、公共交通というのが地域に密着しておりまして、通勤や通学、買い物、通院など地域住民の方の日常生活で欠かせない移動手段としての役割があります。それ以外にも車を利用できない高齢者、学生生徒の移動手段としての役割もあります。現在コミュニティバスの運行につきましては、市内JRが3駅ございますけれども、この駅の生活圏を結ぶ10路線の37経路で運行をしております。暮らしに欠かせない公共交通インフラとして地域住民の生活に必要な不可欠な生活交通路線を果たしているところでございます。

また、近年地域交通を取り巻く環境がたいへん厳しい状況でありまして、特に社会経済情勢、コロナ禍ということもありますし、人口の減少や少子高齢化が進展しておりまして、バスの利用客の減少ということがあります。かなり深刻な問題にもなっております。運行事業の見直しが行われておりまして、地域公共交通と広域交通を結ぶ定期便など様々な影響も見込まれております。

工事におきましては今年4月から、新たな取組といたしまして、バスの今までのコミュニティバスの平均乗車ニーズの低い3路線を休止いたしまして、予約制の小型乗合い自動車運行事業を実証実験といたしまして2年間、4月から開始をさせていただきます。この事業で期待する成果といたしましては、予約があったときのみ運行するため効率的な小型乗合い自動車運行事業の運航が可能となりまして、移動時間の短縮などにも期待をしております。

実施方法はこの4月から2年間ということですがけれども、利便性や予算面での効果を期待しておるんですがけれども、利用状況につきましては毎月利用状況、検証を行っておりますし、それに対する経済効果の検証もしていく必要があります。環境や経済面でも期待や効果や課題整理も必要であろうというふうに考えております。コミュニティバスの運行および予約制の小型乗合い自動車運行事業の描く将来像に関しましては、可能な公共交通の役割を果たすというような取組が必要であると考えており、地域や利用者の利便性などの意向調査を実施していきたいと考えておりまして、今後湖南市の公共交通計画、そういうものを作成して参りますので、その地域公共交通の将来を考えております。

なお来週になりますけど8月から1ヶ月間、広報に載せさせていただくんですがけれども、コミュニティバスについてのアンケート調査を実施させていただきます。ホームページからアップしていただくと、アンケートに答えられるようになりますので、あと各まちづくりセンターに、紙ベースでアンケート用紙をお配りさせていただきますので、コミュニティバスを利用される方、もちろん利用されていない方も、多くのアンケート結果を元に、今後の

公共交通について、役立てていきたいなというふうに考えておりますので、どうぞお願いしたいと思っております。

職員D) 環境経済部でございます。時間を過ぎるかもしれませんが政策評価パッケージシート 26 ページの農業農村基盤設備事業について説明します。老朽化しております農業用水路等と農業用施設の改築更新に要した事業ということで、内容といたしましては、農業用水路の工事ということで、市が直営で実施した工事であるとか県が施工した県営土地改良事業の管理、また用水路など市の施設を改良している土地改良区があるんですけれども、団体が実施する団体土地改良区事業があるというところがございます。令和3年度の決算額としては、6437 万円の執行額として上がっています。これらの財源といたしましては 6437 万円のうち、国・県の補助金として 3834 万円が交付されているわけがございます。しかしながら、令和3年度に実施した事業の中で岩根、菩提寺で農業用水路の更新工事を実施しました。昨年度の繰越金 4290 万円をあわせて、事業全体で約 1 億円を超える事業の実施されたところがございます。

そういった農業用水路の改修でございますので、主に水稻、お米の生産に必要な施設の改修に運用した費用ということで、この事業を上げさせていただいたわけですが、先ほどご質問の中にもありますが、農業ということについて、皆さんのご意見はなかったことで、皆さまにおいては米の生産にはほとんど関わりになかったからだと思っております。そういった方から見て、この農業振興というものに多額の公費が使われて事業が行われていることについてどのようなご意見、評価があるのかお聞きしたいと思っております。本来、こういった評価の中ではふるさと納税やSDGs、脱炭素事業や未来都市などの新たな事業の評価をいただくことが適切かと思いますが、あえて、水稻をつくっている農業の事業について、ご意見をいただきたいと思っております。

それについてこの総合戦略の冊子 181 ページから働く場の創出プランということで、産業力の強化ということで、当課の所管する内容が載っておりますけれども一番上には農林業振興ということで、生産基盤整備及び維持管理の説明をさせていただきました。産業力の強化の中には、施策については、工業振興であったり商業振興という政策評価パッケージもでございます。例えば工業の振興では、魅力ある工業の推進として各企業との連携強化、工業振興支援の充実であったり、また地場産業の振興、そういったことが載っております。商業の振興については、魅力ある商業の振興であったり、個性を生かした商店街の推進といった、そういった、政策評価パッケージが上がっているわけですが、実際、市がその事業にどれだけの予算を使っているか、予算的に見れば工業振興、商業振興に対して、商工団体育成事業として工業会の補助金として 100 万円、商工会の補助金として 1800 万円、中小企業振興事業としての貸付金が 300 万円。市が見ている予算はこれだけです。本来そういったことを所管する当部の方でもっと、工業商業振興に努力をせんかということで、皆さんからお叱りを受けるところでございますけれども、それに対して農業の振興につきまして

は、先ほどいいました農業農村基盤事業につきましては6437万円と上がっていますが、主なものにつきまして、ご説明しますと農業経営安定推進事業、農業者の経営を安定する事業には870万円、農業者の機械補助等に790万円。あと直接支払交付事業として、集落の農地の補填などに使う3000万円、鳥獣被害対策事業費に880万円。農業については大変大きなお金を使っているところもございます。

統計調査を見ていますと、湖南省の工業政府出荷額は、5108億円で直近の数字でございます、小売り卸売業、商品販売額は764億円ということに対しまして、湖南省の農業産出額は、8億6000万円しかございません。そのうち、畜産として先ほどもお話がありましたようにまるさん牧場さんや食肉業者、そこが2億4000万円占めています。米の生産だけを見ると、歳出額は4億5000万円しかございません。それでは、なぜこの生産性が上がらない、農業振興に多額の公費を使って事業をそこまでやるのかというところでございます。そういったところに皆さま、あまり関心がなかったかもしれませんが、湖南省には水田が実際あるから、事業しなければならないというところでございます。湖南省の総面積は約7千ヘクタールです。そのうち10分の1ぐらいの、600から700ヘクタールの水田がございます。水田があるから、事業を続けていかなければならないところで、なぜそれがあるかというところのもう少し説明をさせていただきます。

国の米政策の変遷というところで、第二次世界大戦後に日本が食糧難に陥ったというところ、そこから米を増産しなきゃいけないという、国は大々的に事業を進めたわけでございます。そういったことで、生産力、生産能力がかなり向上しまして、肥料の改善、農薬の改良、農業機械の発展が進みまして、あと干拓や開拓事業で農地がかなり拡大しましたので、日本中で米をたくさん作ったわけでございます。

昭和40年に、戦後15年経って、米の自給率が、100%超えたわけでございます。そのときに米が全国で317万ヘクタール、植え付けられたそうでございます。しかしながら自給率が100%を超えると政府が、全部すべて全量管理しておりましたので、過剰在庫が増えまして政府の管理経費がかなり嵩張ったということで、昭和46年に減反政策が行われまして、国が米を作るなという政策が始まったのでございます。

昭和60年には水稲作付面積が232万ヘクタール、平成12年には127万ヘクタールと水稲の面積が減ってきたわけですが、実際には田は残っておりまして、その水田が残ったまま、米を作るなと国から言われまして、令和2年には136万ヘクタール、昨年は130万ヘクタール、そこまで減ったというところでございます。国の方はもう行き詰まってしまうと、来年農業に関わる法律が変わるわけでございますけれども、今後、国の農業政策がどのように変わるのかなと心配してるところでございます。

湖南省の農業の現状の課題というところでございますが、湖南省は水稲の開拓地帯と書いてありますとおり水田率86%です。これは固定資産台帳から出しましたので、実際のところは水田率はもっと高いと思います。湖南省にある農地は、ほぼ水田ではないかなと思います。また湖南省は圃場整備率が高いということで国がお金を払い込んで、農地を整備した

水田が非常に多いということです。その国がお金を振り込んで整理した農地の大半を、農業振興地域整備計画という計画の中の農用地ということで、農業でしか使ってはいけないというような取り決めになっておりまして、将来的にわたって、農地以外には利用困難かなということを思っています。ちなみにこの農用地は全国に、今の統計でいきますと、400万ヘクタールが農業用地となっております。将来にわたって、農業以外にはほぼ使えないようになっております。先ほどの水稲作付面積でいきますと、水稲米は主食用の米は130万ヘクタールしか使ってないのに、全国には400万ヘクタールも農地があるということでありませぬ。

そういった形で米は過剰に生産されておりまして、なぜ過剰に生産されたかということになりますと、「米価の下落による水稲作農家の低迷」ということで米の生産能力が向上したのが、実際米を食べている需要量が減少しており、価格も下がりました。ご飯離れ、パンやパスタなどの食の多様化も要因です。国民一人あたりの米の消費量は1962年118kg食べていましたが2020年の統計では50.7kgというところがございます。日本国民が米を食べなくなったために、米の生産が過剰になったというところがございます。ですから、湖南省は水稲農家ばかりでございますので非常に農業経営はひっ迫しております。農業経営が困難になりますと農家をやめるといふ農家が増えまして、耕作放棄が発生してまいります。そうなりますと湖南省は農地以外には使えない水田ばかりで、耕作放棄が発生しますと水田に草が茂り景観が悪化されますし、灌水機能であったり農地の多面的機能が喪失することになります。

そうなりますと困りますので、農地や農業施設の維持管理をしていかなければならないというところで、事業が行われているというところがございます。これらを維持するためには、国が進めております農業経営の合理化、経費の掛からない農業を実践するスマート農業、ICTやGPSをつかったスマート農業、大規模化や農地面積を圧縮して合理化を図る、共同農業であったり、そういった農業の合理も図っているところがございます。それと農地の集積です。担い手と言われる大規模農家へ農地を集積するというような事業も、実施しています。

ここで、そういった儲からない農業をするんじゃなくて夢のある農業をしていくために何をすればいいのか。作付転換や米ではなくて、自給率の低い麦、大豆の生産振興であったり野菜や果実等の園芸作物の生産であったり、地域特産野菜の開発、東寺の献上ごぼう、伝統野菜の復刻、そういったものを販売する農産物直売所こびあの開発であったり、事業に取り組んでくれる人を増やしていく農業塾の開講、そういったこれからの農業構造を転換していくような事業を進めるということで、政策評価パッケージシートにもいろんな視点であげていますので、この農業振興については多額の経費をかけているところがございます。ご理解をいただき、今後そのような湖南省の農地を補填することであったり、農業を振興することについて、皆様からご意見をいただけるようでしたらお願いいたします。

委員1) ありがとうございます。全部は時間内に終わらないと思うので、ザクッと気になっ

たところ、コメントをすべきだなどと思ったところをポイントして、最後のあいさつ等は短く、終わらせていただき、若干の延長をお許しいたきて、どうしてもという方はご退席をしていただく形で、もうしばらくお付き合いください。

今、4つの事業について、ご発言がありました。それぞれの部分について、コメントやご意見があれば、挙手していただけたらと思います。

ふるさと納税のことで一言申し上げたいんですけど、先ほどあったように、基本的には、肉が一番、そして生鮮食料品などが次に入っているっていうのは、日本中どこもみんな同じで、特産品なのかとか、地域振興に繋がるのか、根本的に税の正しい配分や取り方なのかなど、やらざるをえなくなっているんでどこの自治体もやっています。外に出されるぐらいならうちに来て欲しいというのは理解できますが、どこまでやれば成功でどこまでやったら失敗なのかっていうのは、例えば上位だと、湖南省の1桁や2桁多いふるさと納税が入ってくるんです。そこを目指すのって正しい振興の姿なのか、僕はちょっと根本的にそれが疑問で、適度でいいんじゃないでしょうかっていうのが私の思いです。そういう制度に頼ったときに、その制度がうまくいかなかった場合や制度改正、もしくはなくなった場合もたなくなる。あまり偏った収入に頼るといって、ただ、ある目的のために特別にしたいという感じのものはむしろ伸ばしていいと思います。

今の最後の農業農村の振興とありましたけれども、日本の戦後路線の結果ですから、そもそも農業ということで冷たい言い方しますが、農のある暮らしは大事だと思ってますけど、もはや業のなりわいにはなっていないだろうとほとんどのところは思います。休みに耕作するような形で皆さん見ていたらお分かりいただけますように、今の水稻耕作はものすごく早い時期に植えて早く刈ります。それやったらもう二毛作できない、麦の収穫の時に田植えしてないといけないのですから。根本的に今のやり方で手間のかからないやり方追求していくと、収入を上げてくるっていうのと矛盾していく形になると思うんです。

ですから今回変な言い方ですけど、農業として成功しないと、税金投入する理屈になりませんかという、もう本当おっしゃるように、工業商業とか、他の人たちが真面目に全部チェックしていたら、何でこんなに農業にお金使うの、そんなに農村にそんなに使うんですかという話になっていたんじゃないかと思います。もうしょうがないんですよ、本当にしょうがないと思っています。湖南省だけがこうなっていたら問題ですけど、日本全体です。日本全体がこうだから一住民からみたら、そういうところに過剰に再配分されているんじゃないというのはあると思うんですけども。ですから今一生懸命説明されようとしていたように、何のために費用が必要なのかっていうところを、農業振興って言い方をすると、多分みんなの順番とずれがあるように思います。農のある風景の湖南省にいたいと言うことを、強調すれば、それは収益型ではやっていけない以上、一定の投下がお金の投下が必要です。それでもやっぱり農のある暮らしのまちに住みたいんですという合意を取らないと、この支出を正当化する意見は、納税者からでてこないと思います。ですから、厳しい言い方ですけど、自前で収支が取れるようなことをやりなさいっていうことを、農家に求めて、ほほほ

ぼ成功する農家は地域産とかいくつか知りませんが、基本的には農業は厳しいので、それはできないのではないのでしょうか。

そうですから、メリハリのつけ方を間違えると、ダウンサイジング要請しなきゃいけないから、自走して欲しい、自立して欲しいって言うがやれない。子ども食堂もそうですし、図書館もそうですし、公共事業として税金投入しないでやれない分野はあるんですが、それに投入することに価値がある、先の話ですけど、若い人たちが集まる場所で図書館を活用したいねっていうことを了解される若者を育てない限りは、無駄な税金の使い方っていうふうになるんですから、農のある風景が、すてきな風景ですね、っていう感性を皆が持つことを目標にしないと、業として成り立つことを目標にかかげることは、なかなか困難だと難しいと思います。

ちょっと言い過ぎかもしれませんが、やっぱり行政がやるべきことを、ダウンサイジングし続ける議論をしちゃまずいだろうと思いますので、その中のやるべき事業で、これは行政が支出してでもやらなきゃいけない事業であるという説明の理屈の力や説得力があるのかどうかというのが、最重要だと思うんです。

はい。委員3さんどうぞ。

委員3) 圃場事業で農地を綺麗に整備されていますが、本来我々が、例えば空き地を保有していたら、そのままにしておくのと税金が高いんですよ。家が建つと安くなるんですけど、農地は圃場事業の場合、税金は上がっているのでしょうか。資産価値が上がっているわけですから、本来かかってくる税金は高くなっていく。国も税金を投入した以上、税金を高くしてバックがないと計算が合わなくなる。やっぱり放棄されたままにされているというのは家が建ってない状態であるので、税金は上がるべき、それだけ余裕があるから放置されるのですから。そういったところの見張りというのか、ちょっと先祖代々の大切な土地を守るとおっしゃいますけれども、守り方というのは、もう少し事業という形で考えていかないと、組合を作るということが解決法かなと、やっぱり整備されたんですから、次の形を考えないといけない。

それとあのバスの話しなんですけど、思い切って白紙でやめるとか、そういったことをしないと、今認可の利権を持っているところに全てまかせている形になっていきますし、新規参入ができるような形に、また平和堂が閉店されると買い物難民が増えますし、そういったところにも対応することをタイムリーに考えていただきたいなと。

委員1) 他にコメントありませんか、どうぞ。

委員5) 地域特産野菜の開発という事業があると思うんですが、数年前、龍谷大学の農学部が先生が協力される形でエンサイを湖南市の特産品にしたいということで、高校側に協力をしてくれないかとありました。当初、科学部の担当をしていましたので依頼をされ、プラ

ンターでも育つよと言われ、大学のほうも見に来てくださってやってたんですが、うち自体、科学部がなくなったので協力できないんですけれども、あの後どうだったんだろうと。当時近隣の保育園とか、ああいうところにも協力してもらってやっていますとってはったんですけど、実際そのあとうまくいって特産品として市場に出始めたのか、それともうまくいわずに違うものに乗換えていったのか、どうなったんでしょうか。

おそらく何か特産品を作っても他の地域でやっているものだったら収穫時期が違ってれば生き残れる可能性は出るんですけれども、農作物の場合、だいたい同じ時期に旬をむかえていくので、そう考えた時に他の地域ではやらない、でも需要が見込める野菜でないといけないと思ったので、どうされているのか気になったんです。先ほどの話で、農業は売り上げを黒字でやっていくのは、なかなか難しいと思うんです、今の現状。どうしても税金を費やさないといけないのは分かるんですが、それを減らしていく方策もしないといけないと思います。

職員D) 環境経済部です。エンサイは龍谷大学の先生に提案していただいてやり始めたことがあるんですが、空芯菜という中国系の野菜なんですけれども、南方系の野菜で湖南省でも栽培ができるよということで始めたんですが、実際には適していなかったことと名前が知られていないため、売ったが手に取ってもらえなかったのです。本来ですとどういった調理方法があるとかそういったものもあわせて、推進していくべきではないかなと思いますが、なかなかその辺が農業のむずかしいところでもあります。

やはり、手に取りやすいと言ったら一般的にキャベツやピーマンであったり知られている野菜は出しても売れますけれども、ちょっと名前を知らない、調理法がわからないというのは、なかなか売れなかったり、そういうこともございまして、特産品の開発についてもなかなか難しいなと、エンサイについては成功はしておりませんが、今後検討していきたいと思います。

委員1) はいありがとうございます。他にはございません。どうぞ委員4さんお願いします。

委員4) 私は湖南省に住んでないんですけども、コミュニティバスのお話とか、広報で掲載されているんですね。通勤して、こっちに来ている人には広報を取りにいかないと、ホームページを見にいかないとわからないので、労福協を通じて、PDFでもいいんで情報を渡していただければ、ちょっと私たちの職場とかにも、おろせるのかなとか。労福協を通じて、会員さんの皆さんにこう下ろせるのかなとか、可能性はあるんじゃないかなと思いました。

あと、いつもですけどあの、いつも行きたくてたまらない酒蔵めぐり、あれいつも新聞でいつもやったんやって、後から気づいて行きたかったって思うんですけど。もうちょっとうまい情報の流し方があったらいいのになっていつも残念に思って、新聞を見えています。

委員 1) ありがとうございます、ほかどうでしょうか。今難しいことはたくさん今日、出されているところがあると思います。例えば、若者のまちづくり事業は、何を成果として考えるかということと、何をやるかっていうところ、そんなに簡単に1対1ではつながらないと思うんです。あれこれやったらこうなりますっていうシンプルにはいかないのです。若者が地域の主人公になっていくためには、いろんなことや経験が必要になるはずなんです。なかなか行政で施策を打ち上げるのが難しい部分でふるさと納税でも同じで、サイトさえ充実させたら問題ない段階はとっくに過ぎてしまっていて、返礼品もコメントがいっぱいあるとかポイントがあるとか、地域の特産品がほとんど Amazon で買うのと変わらない形になってきているし、ふるさと納税に節税効果がある人は、一定の所得層でないと駄目なんで、多くの方はそこまで恩恵をうけられるわけじゃない。返礼品がお得っていうイメージをみなさん持っていますけれど、節税効果がある人って山のようにいるわけじゃありませんから。

そういうことを考えていくと湖南省のまち・ひち・しごと全体をうまく第二次総合計画でどうしていくのかと言っている中で、まだまだこれが切り口になって何か解決するんじゃないかっていう、総合性じゃなくって、一つの政策や作戦が、比較的成果や効果があるんじゃないかという気持ちがコメントが残っているやっぱりまだそういう部分は残っていて、本来的に日本社会が大きく変わっていかざるを得ないという状況に、自治体のあり方も全面的に答えきれてないんです。そういう新しいものを作っていくところの生みの苦しきみぐらいの段階なんです。

なので私はぜひ、今日の茶話会を、今後続けていただいて、いろんな市民の皆さんや事業者の皆さんと交流する中で、新しいあり方はどうしたらいいんだろうかっていうことを、ぜひ考えていきたいし、ある意味特効薬や処方せんがあるわけじゃなくて、いろいろな組み合わせで、ゆっくりとやらざるを得ないという腹のくくり方も必要になってくるんで、この第二次総合計画を実施していく中で、うまく育まれていくと、この改定の時にはもっといいものにおそくなっていくはずだと思いますので、ぜひ、そこら辺を含めた未来志向でできる場が、この場としてありますし、他にも作られることを願っております。

時間が迫って参りましたので、ここで今日の茶話会については閉じさせていただきたいと思います。いろいろ皆さんご発言いただきましてありがとうございます。行政の皆さんもありがとうございます。

職員 A) それでは委員 1 さま、またお集まりの委員の皆さま、長時間ありがとうございます。本日いただきましたご意見は、貴重なご意見ですので、事務局しっかりと整理をさせていただきます。また、今後の事業のサポートもさせていただきたいと思います。また今日時間がなくて大変申し訳なかったんですが、言い切れなかったご意見等がございましたら、意見記入シートを配布させていただいております。本日のことについて、またその他のことについてでも結構です。8月12日までにご意見を、またある方は、いただき

いと。メール、FAX なんでも結構ですので、事務局地域創生推進課までいただけたらと考えています。

本日の議事内容につきましては、ホームページで公開し、市民の皆さんとも共有を図っていきたいと思いますので、どうぞよろしく願いをいたします。

それでは、ちょっと時間超過をして申し訳なかったですが、これをもちまして令和4年度湖南省まち・ひと・しごと戦略茶話会を閉会させていただきます。お忙しいところお集まりをいただき誠にありがとうございました。

終了